

2022年度②

# 商 法

(全 2 ページ)

## 注 意 事 項

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
2. 解答用紙・下書き用紙は、この冊子の中に折り込んであります。
3. 解答はすべて解答用紙に記入しなさい。
4. 解答は指定された範囲に記載すること。「書き終わり」をこえて記載した場合は、採点をしないことがあります。
5. 試験終了後、問題冊子・下書き用紙は持ち帰りなさい。

## 商 法②

I 手形行為の無権代理人に関する手形法上の責任について、説明しなさい（150字以内）。（20点）

II 次の問題〔1〕・〔2〕につき、それぞれ解答しなさい。その際、単に結論を出すだけでなく、結論を裏付ける理由についても簡潔に示しなさい。（計80点）

〔1〕 甲株式会社（以下、「甲社」という。）は、資本金の額が4億5000万円、総資産の額が30億円、負債の総額が25億円の取締役会設置会社でかつ監査役設置会社である。甲社の取締役には、代表取締役社長A、取締役副社長Bのほか、計5名が選任されている。近年、甲社の取締役会では、A派とB派に分かれて、取締役間で対立が生じていた。

令和3年4月、Aは、乙株式会社（以下、「乙社」という。）の代表取締役Cから、乙社が経営危機に陥ったので、乙社が株式会社丙銀行（以下、「丙銀行」という。）から受ける3億円の借入れについて、甲社が丙銀行との間で当該借入債務について保証することを依頼された（以下、「本件保証」という）。乙社は、甲社のかつての取引先であり、Cは、Aの大学時代からの旧友である。また、Aは、乙社の発行済株式総数の10%を保有し、乙社の監査役を兼任している。Aは、本件保証に応じることとしたが、B派の反対により否決されることを恐れて、本件保証を取締役に諮ることはしなかった。

同年5月、Aは、甲社を代表して、丙銀行との間で、乙社の丙銀行に対する3億円の借入債務について連帯保証する契約を締結した（以下、「本件保証契約」という）。本件保証契約の締結に際し、丙銀行は、甲社取締役会の議事録を徴求したので、Aは、本件保証契約について取締役会決議を経た旨の議事録の写しを巧妙に偽造して作成し、それを丙銀行に交付した。

乙社が丙銀行に対する借入金を返済しないまま倒産したので、丙銀行は、甲社に対して、本件保証契約の履行を求める訴えを提起した。甲社は、本件保証契約が取締役会決議を経っていないことを理由に、丙銀行の履行請求を拒むことができるか。（40点）

〔2〕 X株式会社（以下、「X社」という。）は、京都府福知山市に所在する建築資材の製作・販売業を営む取締役会でかつ監査役設置会社であり、近畿一円を販売区域としている。X社の取締役は、代表取締役P、営業担当の常務取締役Q、製造担当の常務取締役Rの3名である。QとRは、10年ほど前から、次期社長を巡りライバル関係にあったが、数年前からPは、次期社長はRだと公言するようになっていた。

令和3年1月、Qは、建築資材の専門商社であるY株式会社（以下、「Y社」という。）から、「京都府で建築資材事業を立ち上げるにあたり、取締役事業部長の待遇でぜひ入社してほしい」との誘いを受けた。Qはこれを承諾し、同年2月のY社の株主総会において、Y社の取締役として選任され、その後、Y社の取締役事業部長として陣頭指揮を執り、建築資材を全国の建築業者に販売する取引を行った。Qは、当該取引についてPとRに相談することもなく、独断で実行していた。Y社は、Qの実行した当該取引により、令和3年2月から5月までの間に1000万円の利益を得た。

令和3年5月、PとRは、不審な行動が多くなったQの身辺を調査した結果、QがY社の取締役として、全国に建築資材を販売している事実を突き止めた。Qは、この事実を認めたくえで、X社の取締役を辞任した。

X社は、QがY社の事業に従事した結果X社に損害が生じたとして、Qに対し、X社に対する会社法上の責任を追及する訴訟を提起した。QのX社に対する責任の成否について、論じなさい。(40点)